

磐田市いじめ防止等対策推進委員会

- | | | | |
|---|------|---|---------------------|
| 1 | 日 時 | 平成 29 年 5 月 31 日 (水) | 午後 2 時から午後 3 時 30 分 |
| 2 | 場 所 | ワークピア磐田 (勤労総合福祉センター 視聴覚室) | |
| 3 | 出席者 | 岸田真穂 静岡県弁護士会
猪原裕子 臨床心理士
井上佳子 精神保健福祉士
遠藤 彰 磐田市立総合病院 小児科部長 | |
| 4 | 出席職員 | 教育長 学校教育課長 教育支援グループ長 担当指導主事 | |
| 5 | 傍聴人 | 0 人 | |

○教育長挨拶

・村松教育長

本日は出席いただきありがとうございます。平成 25 年 9 月にいじめ防止対策推進法が施行され、磐田市にいじめ問題対策連絡協議会といじめ防止等対策推進委員会が置かれました。連絡協議会は横のつながりをつくり、推進委員会は重大事案を検討したり防止対策を考えたりします。よろしくお願ひします。

今日の新聞に、「取手中 3 いじめ自殺『重大事態該当せず』撤回」という記事が載りました。子どもの命が失われているのに重大事態ではないのはおかしい話です。世間の認識と法律の差もあります。横浜の原発避難いじめも、いじめではなく恐喝などの犯罪といってもいいでしょう。マスコミも、一般受けする報道をすることがあるので、慎重に対応していかなければなりません。

磐田市では、「子どもみんなプロジェクト」に取り組んでいます。浜松医科大や大阪大が参加し、市内の 1 / 3 の学校、約 6,000 人の児童生徒、保護者、教員が参加し、いじめや不登校の要因を明確にしました。いじめ被害のベスト 4 は、「仲間はずれ」「陰で悪口」「嫌なことを直接言われた」「遊ぶふりをしてたたかれたり蹴られたりした」です。性的嫌がらせを 11 回も受けた子どももいました。また教師に相談する要因としては、教師は優しいだけでなく、本当に子どもに対し真剣にかかわりをしているかがポイントとなることも分かりました。

重大事案は起きていませんが、磐田市内 13,944 人の児童生徒をしっかりと見て、寄り添っていかなければなりません。いじめは必ず存在していることを意識していただけるとありがたいです。本日は、よろしくお願ひします。

○協議

・事務局

これまでの経過といじめ防止等のための基本方針

磐田いじめ問題対策連絡協議会報告

いじめアンケートの結果

いじめ等の現状説明

●意見交換

- 何日休むと不登校となるのですか。また、不登校の原因として「いじめを除く友人関係」とありますが、どこでいじめかそうでないかを区切っているのですか。
- 年間 30 日以上欠席を不登校としています。子どもたちの様子を見ながら学校の判断になりますが、調査項目に「いじめ」と「いじめを除く友人関係」の両方があります。いじめが原因の不登校も 1 件ありましたが、学校で話をしてもらっています。加害者もいじめを認め謝罪し、和解しましたが、他の要因も絡みながら欠席が続いてしまいました。友人関係の中にいじめが隠れている可能性もありますが、いじめがすべてだとは捉えていません。
- 切り分けは難しいと思いますが、「いじめを除く友人関係」という耳障りがいい言葉で本当の原因が見逃されてしまうと問題かなと思います。
- 発達障害であると、その子にも特性があるのでかかわりが難しいです。自閉症スペクトラム、知的障害、境界知能の子どもたちは自己達成感も沈んでくるので、周りから浮いてしまうことが出てきます。それでトラブルがあると、いじめやけんかにカウントされてしまうこともあるのかもしれませんが。自己達成感がどんどん落ちてくると、不登校になってしまうかもしれません。バックグラウンドが複雑化し、家庭の問題も出てきます。要因があれもこれもあって、不登校の解決策がはっきりと見つかりません。そういう要因がいっぱいあることを、本人も保護者も気づいてもらいながら、どうするか考えていくしかないと思います。いじめをクローズアップしたいところですが、人権を守る、命を守ることもしていかなければいけません。逆に不登校になってしまった子の方が、危ない場面に行かないので、命は守られています。逃げ込んでいるだけなんです。安全なので医学的にはOKです。でも、学校に行けないことはまた問題です。問題が深めれば深いほど、学校で集団の中にいるのがいいのか、安全地帯にいるのがいいのか、問題です。その子の居場所を作ってもらったり、社会支援をどれだけ入れるのか探したりしています。認知度が上がってきているのはいいことです。周りの子ども、変な子がいると思ったり、からかったりすることはあります。こんな子がいるという立場を分かることが、学校では大切です。不登校の原因は単純ではないので、大変だと思います。

驚いたのは、いじめの解消率がすごく高いことです。どんな工夫があって、解消率が高くなっているのでしょうか。
- 学校で早いうちに見つけて、話をしてくれて対応してくれている成果だと感じています。アンケート調査で上がってくれば、大小に関わらずすべてに関して、被害者、加害者に話を聞いてくれ、子どもたちはその後、元気に生活できていて、いじめの解消につながっています。
- 当たり前のことですが、加害者も被害者もだれか重要な大人とつながっている。つながりがないと離れて行ってしまったり、救いがなくなってしまう。つながりが早期解消の要因だと思います。先生方はよく見ていてくれます。
- どんないじめかによって効果はぜんぜん違いますが、発達障害の子どもをもつ保護者から話を聞くと、絶えずいろいろな場面があり、事象が違いながらぶつかっていると思います。場面が限定されているから、対応はしやすいと思いますが、ネット上では対象が広がってしまうので難しくなると思います。

- 磐田市では、90万円ほどかけてネットパトロール事業を行っています。
- ネット上の書き込みや中傷、危険な画像の投稿について、学校名などをキーワードにして検索をかけています。自傷行為の画像が載っていたこともありましたが。ただし制限があり、パトロールができないSNSもあります。見つけたものは、学校に報告しています。個人が特定されるので、ネットパトロールをしていることを伝えながら、心に寄り添った指導をしています。自傷行為の画像を載せる子は、見てほしいという願望があります。自傷行為や深夜徘徊を繰り返しながら、つながりを求めています。
- SNSはいじめにつながりやすいのでしょうか。SNS外しなどもありますので。
- SNSのグループの中で、傷つくことを言われた事例はありました。
- 携帯電話の保有率はどれくらいですか。
- 協議会で報告がありましたが、磐田市の場合は48%です。
- アンケートについてですが、いじめの被害はいつのことになるのでしょうか。
- 「今の学年になって」という期間で今年の10月に調査をしています。
- 半年の中でいじめにあったと答えた子どもが約半数いるんですね。一方でいじめの認知件数との差はどれくらいあるのでしょうか。
- 市内の小学生が約9,000人で認知件数が300件ほどです。
- いじめ目撃は6,000人調査して50%なので3,000人、9,000人いたら4,500人となります。いじめ被害は45.5%なので、4,000人存在していることとなります。
- 認知件数と実際の調査との質が違うところがあると思います。先ほどの解消の点でも気になったのは、解消していれば報告しやすいです。またいじめかどうか判断に迷うところでは報告してこないこともあるのかもしれませんが。しかし子どもたちの方は最近教育を受けているので、ちょっとでもあったらいじめだと感じているのかもしれませんが。認識の幅の違いもあると思うので、どう考えていくか。いじめが発生してから介入するだけでなく、予防という観点でいけば減るのかなとも思います。
- SOSミニレターが年間に20通ほどだとありましたが、こちらの方が深刻度が上なんでしょうか。
- 人権擁護委員の方が返事を出してくれます。比較的問題としては深刻かもしれませんが。真剣に返事を書いてくれる大人がいるというその存在が大切です。
- これは記名式なんでしょうか。また情報は学校に共有するのですか。返事を出した後、どうつながっているのでしょうか。
- 返事を出しますので、原則記名式です。情報については、事案によっては学校・関係機関と共有をします。近くに相談できる人がいないかを確認をし、いない場合は、人権擁護委員や法務局で直接対応しています。
- いじめはなくなるものではないというのが大前提にあって、どこまでを認知して、どこまでを解消としているのか、大人の枠組みと子どもの枠組みが複雑になっているので、数字をどこまで信じていいのかわかりません。以前に比べて、いろいろな視点で調べてくれていて、今はこういう視点で見ているんだなというのが分かります。大人とつながっているところが、今やっているところで、そんな大人や子どもがいっぱいいいて、傍観者がいっぱいいて抑止力になってくれるような大枠の仕組みをどう考え、どう子どもたちの行動に関係していくのか考えなければなりません。現在は、一人の先生個人に頼って

いるところがあるので、学校としてどうまとめていくのか、学校で外部機関とつながるとき、だれが窓口なのか、よく感じるところがあります。学校ではよく子どもを守ってくれているので、それを倍増させるような予防策を考えるといいと思いました。子どもを守る仕組みは難しいと感じました。子どもの発達段階によっても、信憑性が変わってくるかもしれません。学校の先生たちは、外部機関から困っている子どもや保護者がいると聞くとすごく真剣に動いてくれます。忙しいはずなのに、忙しいからという声は聞いたことがありません。何とか時間をつくって早期に対応してくれています。それが強みです。また先生方も余裕がないと対応できないので、日常的にどのような組織の仕組みや外部機関の関わりなどの体制を考えていく必要があると思います。

- 個々の学校で、情報や対策を共有する場はありますか。
- 教頭には、全員の名前や特性、家庭状況などを把握するように言っています。職員室の話題やケース会議などで、必要に応じてタイムリーに対応しています。
- 心配な子がいれば、学年や全学年主任、前の学年のつながりなどで、より多くの目で見ています。
- 問題はほっておくとより大きな問題になり、解決するのに莫大なエネルギーが必要になります。そのときに保護者でなくても担任等だれか大人がいてくれれば、ブレーキをかけることができます。組織をしっかりと対応したいと思います。現在、子どもみんなプロジェクトとして、大学の先生方を含めて取り組んでいるのが、日本学校風土研究です。指数を作って、学校の雰囲気の数値化します。
- 学校ごとの数値はどうか、前年度との比較はどうか、調べることもできると思います。小規模の学校ほど小さいときから同じメンバーで過ごしているのか、かたまりやすい傾向があるかもしれません。分析の仕方はいろいろあるかと思いますが、担任によっても違いがあるかもしれません。学級経営にどんなルールをもっているかという共通点が分かれば、予防の一つのヒントになるかもしれません。起きてから介入しているだけでは、なかなか難しいと思います。認知していないときでもちょっと発生している状態のときに何かしら介入ができ、いじめが軽減していくのであればいいと思います。
- そのようなことを数値化しています。今までは、経験豊かな教員がうまく指導している要素を数値化して、他の教員の指導に生かします。同じようにやっているはずなのですが、学校による違いも出ています。何か見えない要因が、数値化により見えてくると思います。予防が教育活動そのものです。人を大切にしましょう、友達と仲良くしましょう、悪いことをしたら謝りましょうなどということを、体験を含めながら人と人のかかわりの中でつくっていきたいと思います。愛情をもって子どもを育てることが一番です。
- 実の親だけでなく頼りになるのは先生です。社会の規範となる正しい大人としての先生の存在は重要です。そのことを意識すれば、かなり落ち着くと思います。医療安全の分野では、ヒヤリハットをメールで知らせてもらうようになっています。気になることがあれば何でも入れてもらい、後で内容を見て医療事故などの重大な被害が出た場合など、グレーディングを分けています。いじめについてもどの程度かグレードを決めて、集めていくといいと思います。アンテナが高い教員は、グレード1が10件あったなど、低いグレードで捉えられているので、予防的になります。高いものだけが出てくると、

それは氷山の一角と考えられます。低いグレードのものを捉えられる力は、数値化できると思います。アンテナの張り具合が高まるかもしれません。医療の現場でも、グレード0や1がたくさん上がっていることがいいと評価しています。それが上がってこない状況は、隠しているか、関心がないかで、よくないとなります。学校でも、グレード0をどんどん上げようという取組が効果が上がるのではないかと思います。

- はあとでも、ヒヤリハットをグレードで分けて上げてもらっています。上げないということは気付いていないということなので、ちゃんと気付いて次に生かそうという意図があります。集計を取ってみると、職員の動きと気持ちが発生時間に反映していて、気持ちが落ちてしまう時間帯があることが分かり、業務改善しなければいけない点が見えてきました。分かりやすく、現場に負担感もないので、上げると悪いのではなく、上げる方がよくなってくるので、書くことを楽にするシステムを作る課題はありますが、よい方法だと思います。グレードは0から6まであり、0は、「被害はないが、今後被害につながる可能性が少しある」ものです。
- 医療でも7段階でやっています。学校現場で実情に合わせて考えてもらえばいいと思います。
- すごくいいと思います。しかし、学校現場でグレードが違くと、教員が迷うことがあるので、学校ごとに違わないほうがいいですね。トップの人が自分の評価に関わるので、いじめの事実を出すのを嫌がるということはありませんか。
- 昔はそういう時期もありましたが、今はそれをクリアしています。それよりもいかに子どもを見ることができかが重要です。問題があることが当たり前で、問題が出ないことが問題です。グレードは学校でもやってみたいですね。
- 医療の現場では全国共通でやっています。0の報告が多くてよかったねと言うことになります。
- 0の報告を聞くと、他のクラスの先生も「こういうことがあるので、何も起こってなくても、気を付けなければいけないんだ」と感じることができます。私の職場では、それがいい感じに職員の気づきにつながっているので、0の報告はありがたいです。
- 重篤な場合はケース会議を行うと思いますが、その前に0の段階でこんな工夫ができてよくなったという防止策を情報を共有できるだけでも、現場の教員も楽になるし、モチベーションも上がってくると思います。そのために報告システムを取り入れたらどうかと思います。
- 教育の現場で、グレード0は、どんなものがあるのでしょうか。
- A君がB君のことを「ばか」って言ったので、理由もあって、謝って済んだけど、その後何度も続いたり、周りも関わったりしてきて問題だなと感じれば、グレード0になるのではないかと思います。先程不登校の理由で出ていた「いじめをのぞく友人関係」なども含まれるかもしれません。
- 子どもが移動する中で、平気で友達机に当たり、そのまま行ってしまうこと、ごみが多くなりそれが広がっていくこと、なども考えられます。
- その子本人の問題もあるかもしれませんが、それがきっかけになってけんかになっていきます。現場では、けんかのきっかけとなった点を押さえておくことが大切です。そういう意味では、報告システムで上げてもらうと見る要素としてアンテナが高くなると

思います。

- 巡回相談で学校を回って気になるところは、先生方は「どうしたらいいですか」と聞いてくるのですが、子どもの言い分を聞いてないことがよくあります。いじめの問題のときでは、いじめた側にも言い分はあります。巡回相談では、発達障害の子どもについて相談を受けますが、「どうしたらいいですか」と聞かれます。その子がどうしたいかをしっかりと聞いてほしいと思います。先生方は、教えなきゃと一生懸命なんですが、まずは本人に聞いてほしいと思います。
- 万能の法則を求められますが、個々によって違うので、これといった方法はありません。
- 発達障害系の子どもは、「私はこうしたいのに、この子は聞いてくれない」ところからトラブルが発生して、それが積もり積もって、周りもそう思っていたということがよくあるパターンです。「いじめはいけません、あなたは我慢しなさい」だけでは、うまくいかないと思います。
- それでは、委員から出た意見を整理していただいて、各関係機関と連携を密にし、いじめ防止の対策につなげていただきたいと思います。
ありがとうございました。